

幼児期の共感性を測定する

—日本語版 EmQue (Empathy Questionnaire) の開発—

概要

京都大学大学院教育学研究科の高松礼奈 助教、楠見孝教授、ライデン大学 Yung-Ting Tsou 博士研究員、Carolien Rieffe 教授の研究グループは、幼児期の共感性を測定する心理尺度 Empathy Questionnaire (EmQue) の日本語版を開発しました。EmQue は、子どもの共感性について、母親（もしくは子育てに関わっている大人）が評定する心理尺度です。心理学の理論をもとに、①情動伝染、②他者の情動への注意、③向社会的行動、といった共感性の3側面を測定します。

本研究成果は、2021年7月6日に国際学術誌「International Journal of Behavioral Development」オンライン版に掲載されました。



[図の解説]

1～2歳頃から、自己と他者を切り離し、相手の感情を正しく理解した上で、自発的に向社会的行動を取るようになります(右図)。たとえば、自分は楽しくおもちゃで遊んでいても、泣いている他児に寄り添ってなぐさめるなど、相手を思いやった行動がみられます(左図)。

1. 背景

共感性は、人と人をつなぐ「糊」(social glue)と比喻されます。「いいね!」と、同じ経験を誰かと共有したとき、満足感だけでなく、幸福な気分になれます。実際に自分では見聞きして体験していなくとも、友人や家族と会話する中で、自分も同じ気持ちや考えをもつようになります。このように、直接その出来事を体験していなくとも、体験者の気持ちを理解し、感情の共有を可能にするのが共感性です。

共感性は多面的であり、生まれながらに備わっている部分、社会生活の中で育まれる部分とあります。とりわけ、幼児期は、共感性が著しく発達する時期と言われています。それでは、幼児期の共感性はどのように測定されるのでしょうか。

2. 研究手法・成果

本研究グループは、幼児期の共感性を測定する心理尺度 (Empathy Questionnaire; EmQue) の日本語版を開発し、信頼性と妥当性の検討をしました。また、作成した尺度が、男児と女児で違いがないか尺度の測定不変性を検討し、年齢との関連についても調査しました。調査は、幼児 550 名 (平均 4.2 歳) を対象にオンライン上で行いました。調査票の EmQue では、養育者 (母親) に、ここ 2 か月のお子さんの行動について思い出してもらい、各記述の行動 (例: 「大人が他の子に怒ると、わたしの子どもはじっと見る」) がどのくらいの頻度であったか、「1=全くなかった」～「5=いつもあった」の 5 件法で回答してもらいました。

分析では、日本語版 EmQue が、理論で想定されている 3 要素: ①情動伝染 (例: 「他の子がぐずっていると、わたしの子どももあやしてもらいたがる」)、②他者の情動への注意 (例: 「他の子が泣くと、わたしの子どもは顔を上げて見る」)、③向社会的行動 (例: 「他の子がぐずると、わたしの子どもは元気づけようとする」) にまとまるか、男児と女児で尺度の性質が変化しないか、さらに年齢との関連を調べました。その結果、日本語版 EmQue は英語版と等価な心理尺度で、子どもの性別によって尺度の性質が変わることはありませんでした。また、年長になるほど向社会的な行動の頻度が増える傾向が示されました。

3. 波及効果、今後の予定

EmQue は、幼児期の共感性を測定する心理尺度では、文化間で共有される世界初の研究ツールです。今後、日本語版 EmQue は、幼児期の共感性をテーマとした研究に大きく寄与することが期待されます。

4. 研究プロジェクトについて

本研究プロジェクトは、京都大学若手研究者スタートアップ研究費の助成を受けて行われました。

<研究者のコメント>

共感性は心理学や隣接する学問で大きなテーマです。しかし、幼児期の共感性に関しては、文化間で共有された測定ツールがありませんでした。なお、成人を対象とした心理学の研究では、共感性の個人差を測定するために自己報告式の心理尺度が広く用いられています。しかし、研究対象が子どもの場合、方法上、特別な配慮が必要となります。特に、ある程度の言語能力が求められる心理尺度を用い、内省報告が苦手な就学前の子どもたちの共感性をどう測定するか大きな課題でした。

2019 年 12 月、EmQue について Leiden 大学の EmQue 開発チームにコンタクトを取ったとき、他文化圏で EmQue を開発するプロジェクトがちょうど開始した時期でした。現時点 (2021 年 7 月) で、EmQue は、日本語を含めて 7 か国語で実用化されています。今後の研究にて、日本語 EmQue が、1 つの選択肢として活用

されればと思っています。

<論文タイトルと著者>

タイトル：The Japanese empathy questionnaire (EmQue) for preschool children: Psychometric properties and measurement invariance across gender (日本語版 EmQue (Empathy Questionnaire) の開発、信頼性と妥当性、性別による不変性の検証)

著者：高松礼奈, Yung-Ting Tsou, 楠見孝, Carolien Rieffe

掲載誌：International Journal of Behavioral Development

DOI：10.1177/01650254211022852